

『半径3mの人の幸せに向けて、主体性を発揮する大洲中生』

藤枝市立大洲中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事		プログラム	職員研修
4月	1年生を迎える会 異学年合唱交流会 ソーシャルスキルトレーニング①	歌おうムービー あいさつ運動 ティンゲ	<ul style="list-style-type: none"> 1年生への生徒会長歓迎の言葉、専門委員会紹介、部活動紹介。 	ピア・サポート担当と特別活動主任で今年度の活動を検討
5月	上級生による家庭学習計画講習会		SST① 中1 温かな人間関係を育む『なんでもバスケット』 中2 温かな人間関係を育むロールプレイ 中3 私のハート	
6月	小学生への読み聞かせボランティア 小学校6年生による中学校見学 地域の方々の読み聞かせボランティア 上級生による家庭学習計画講習会		<ul style="list-style-type: none"> 中学生が小学校を訪問し、読み聞かせを行う。 	ピア・サポート研修会の報告
7月	生徒会長選挙 小中合同リサイクル活動			小中合同研修会でピア・サポート活動を報告し合い、今後の活動内容を確認
8月				ピア・サポート研修会の報告
9月	Osu Sports Festival 種目説明 生徒会役員委嘱式		<ul style="list-style-type: none"> 歌おう活動を通して、互いを認め合うことの大切さを実感できるようにする。 	
10月	文化発表会 文化発表会振り返り Osu Sports Festival 練習・係別会合 Osu Sports Festival Osu Sports Festival 振り返り 大洲ふれあいスポーツの集いボランティア	校則検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> Osu Sports Festival に向けた練習や当日の活動を通して、仲間との絆を深める。 	ピア・サポート担当と後期生徒会担当で、後期の活動の検討
11月	生徒大会 大洲ふれあいまつりボランティア 小学生への読み聞かせボランティア 小中合同リサイクル活動		<ul style="list-style-type: none"> 生徒大会を通して、今後の大洲中学校の目指すべき姿について全校生徒で考え、共有する。 	
12月	これまでの生徒会活動の振り返り			
1月				
2月	ファイナルコンサートの準備 3年生を送る会の準備 ソーシャルスキルトレーニング②		<ul style="list-style-type: none"> 学年合唱を通して各学年の成長を認め合い、次年度に向けて目標を 	
			SST② 中1 自分も相手も大切に自己表現をしよう 中2 自分も相手も大切に自己表現をしよう 中3 リフレッシングワーク	
3月	感謝のつどい 3年生を送る会 ファイナルコンサート		<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生を中心に、3年生への感謝の気持ちを表す機会を設ける。 地域ボランティアの方々への感謝の気持ちを表す会を設ける。 	

1 本校のピア・サポート

本校では今年度、生徒が半径1mの利己的な幸せではなく半径3mの人の幸せに向けて、主体性を発揮する場面設定や生徒との関わりを全教育活動における指導の重点とした。そして、生徒の挑戦や成長に対して「感謝」と「感動」の「ありがとう」を伝えて価値付ける「ありがとう Finish」を全校体制で取り組んできた。この取組を通して、ピア・サポート活動の基盤となる「人・もの・こと」への積極的な関わりや、互いを認め合い、支え合う関係づくりの醸成に全教職員で努めてきた。

2 本年度の取組

(1) 授業において (<提言4><提言5>)

「正解主義」や「同調圧力」に流されるのではなく、生徒が自分の考えや意見を気兼ねなく表現し合いながら問いの解決を図る「生徒が自走する授業」を目指し、その実現に向けて全校体制で取り組んだ。どのような意見や考えを発言しても受け入れられるといった安心感が心理的安全性の確保につながり、互いに認め合ったり励まし合ったりしながら授業に取り組む姿が見られるようになった。

(2) 特徴的な活動

① OSF (Osu Sports Festival) について (<提言4><提言6>)

今年度は運動が苦手な生徒でも活躍できる場をつくり、誰もが安心して参加できることを目的に従来の体育大会から「OSF (Osu Sports Festival)」へ変更した。練習や係の仕事の中での異学年交流の場を多く設定し、学年の枠を越えて協力する場面が多く見られた。また、行事後は生徒が互いの努力や支え合いに感謝を伝える「ありがとうメッセージ」を書き、昇降口に掲示した。

② 校則検討について (<提言2><提言6><提言7>)

誰もが「明日も行きたいと思える学校」づくりを目的に、生徒が主体となり校則を検討する機会を設けた。新たな校則について検討する際には、自分一人の利益を優先するのではなく、校内に加えて周囲の人々や少数意見を尊重することで、誰もが笑顔で安心・安全に生活することを重点としながら議論を重ねた。新たな校則を考えることを通して、全校生徒に一人一人の幸せや他者を思いやる気持ちが醸成された。

③ 合唱について (<提言6>)

本校では「合唱」を生徒会三自慢の一つに掲げている。合唱活動においては、歌おう専門委員が中心となって一つの曲を創り上げる過程で意見を出し合い、よりよい合唱を目指して協議する姿が見られた。振り返りでは、「友達の考えを聞くことで合唱がより良くなったと感じた」といった仲間の良さを認め、更に高みを目指そうとする言葉が聞かれるなど、生徒にこの活動を通しての学びが実感されてきている。また、4月に行った「異学年合唱交流会」では互いの合唱の良いところや練習への取組の改善点を学年問わず伝え合う姿が見られ、合唱の高め合いを通して温かな人間関係が育まれている様子が見られた。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度、「半径3mの人の幸せのために」という視点を明確にしたうえでの活動を行ってきたことで生徒同士が互いを意識し、支え合おうとする姿が学校生活の様々な場面で見られるようになったことが成果である。特別活動を中心とした取組が、生徒にとって他者理解や自己の成長を実感できる機会となっている。一方で、活動への関わり方や学びの深さには個人差が見られることから、今後は活動の目的を事前に共有し、活動後の振り返りを充実させることで、全ての生徒が学びを実感できるよう支援していきたい。来年度に向けては、特別活動とピア・サポートの理念とのつながりをより明確にし、互いを尊重し支え合う姿の育成を図っていく。